

(十三) 蛇番谷(じゃばんだん・城番谷)

鳶が巢城跡の西斜面「二ノ鞍」を伊努谷川で挟んだ対面の谷を昔から「蛇番谷(じゃばんだん)」と呼んでいます。

古老の話しによれば、この谷には大きな蛇が住んでおり、谷に入ると、蛇にかみ殺されると言い伝えられている恐ろしい谷だから「蛇番谷(じゃばんだん)」と呼ぶそうです。

戦国時代に鳶が巢城での戦のために米などの食糧を蓄える「二ノ鞍(倉庫)」を守るためにそのように言ったのだろうという一理ある一説です。

このような観点から「蛇番谷(じゃばんだん)」は「城番谷」の呼称が変化して伝えられた地名ではないかと考えられます。

「蛇」がつく地名は、全国各地に存在していますが多くは「蛇」が「城」の変化した呼称であると指摘されています。たとえば三刀屋の「蛇山」は「城山」の誤りであると地元では言われています。

また 遥堪の「じゃ山城」は、戦国時代に尼子勢の松井弾正宗則が毛利勢の片寄筑前守に討伐された事で有名な城です。

地元の人達は、今でも「蛇山」と呼んでいます。実際は「城山」が本当らしいとの古老の話です。

伊努谷川沿いの「蛇番谷(じゃばんだん)」は数回の土砂災害にあい決壊したため、今は砂防堰堤が建設されています。

